

デンソー山岳部 2016年度 春山合宿報告書

■山城 北アルプス 穂高周辺 - 霞沢岳、蝶ヶ岳 -

■日程 平成28(2016)年4月29日～5月2日

■メンバー 小田修三 (CL, 装備) 根芝亮子 (SL) 吉田有希 (食料) 吉田明和 (装備)
神戸和広 (気象) 町田修 (渉外) 天野広 (会計) 藤田勝啓 (記録)

<第1日> 4/29 (金) 晴れ 行動時間=3H20M (休憩含む) [神戸 記]

【行動記録】N1 駐車場刈谷発 (6:10) 一沢渡足湯駐車場着 (10:45) ⇒上高地バスターミナル (11:10)
上高地バスターミナル発 (11:20) 一明神1本 (12:05-10) 一白沢出合 (12:15) 一標高1800m付近 1本 (13:10-20) 一標高2090m付近 1本 (14:20-30) 一徳本峠テン場 (14:40)

今回は連休初日の朝に刈谷を出発。駒ヶ岳 SA、新島々のコンビニで休憩を挟み沢渡の足湯駐車場に着く。タクシーの運転手によると、上高地は朝方雪が降ったとのこと。刈谷とは気温がかなり違う。28日から寒気が南下しているとのことで天候が不安定らしい。それにしても上高地から眺める山々は雪が少なかったが、穂高の吊尾根は雪がべったりついていて、ひんやりした空気の中、明神まで一気に歩く。徳本峠分岐では5年前吹きだまりの雪で道を河原に間違えたのに今年はない。右に折れて緩やかに傾斜をあげて登っていく。1800mを過ぎたあたりからようやく登山道にも雪が現れる。途中外人が巻き道を分らず立往生している横をジグザグに登っていくとついてきた。梓川沿いの遊歩道と登山道の区別がないらしい。そのうち諦めて引き返していった。峠に向かって登って行くと前方の空がだんだん低くなる感じが好きだ。皆さんも歩きながら地形の変化を感じていると思う。雪がべったりついたトラバース道の手前で最後の1本をとるとすぐに徳本峠に着いた。予想した通りテン場は雪がない状態だった。明日に備えて周辺の登山道を探索に行くと朝方降ったと言われる雪はほとんど積もっておらず、トレースもしっかりしていることを確認した。明日の霞沢岳登山に期待してこの日を終えた。

(記: 神戸)

<第2日> 4/30 (土) 晴れのち雨 行動時間=11H20M (休憩含む) [藤田 記]

【行動記録】起床 (3:30) 一徳本峠テン場発 (5:10) 一ジャンクシオンピーク (6:45) 一2300mガレ上部 (8:10-20) 一K1下部 (9:05) 一K1 (9:55-10:05) 一ジャンクシオンピーク手前 (12:05-15) 一徳本峠 (13:30-14:10) 一1700m (15:00) 一白沢出合 (15:30-40) 一徳沢園 (16:30)

.....霞沢岳!! わずか届かず.....

今日の予定は徳本峠から霞沢岳を往復して徳沢園まで下る。夏道の歩行時間は10時間の長丁場だ。気合を入れて登山道に入る。直ぐ上に展望台があり、前穂高岳と奥穂高岳の一部が見えた。天候も申し分なく、楽しみな山行になりそうだ。夏道沿いにトレースが付いているが、基本は稜線を外さないように樹林帯を登る。所々地面が露出している。緩んだ雪でアイゼンに団子が付かない様注意する。ジャンクシオンピークにはテントが数張りあり先行パーティがいるようだ。ここから一旦150m程緩やかに下って登り返すが、K1、K2、霞沢岳に続くスカイラインが見えてくる。先は長いがピッチはなかなか進まない。予定時間より遅れている。2300mガレ上部で一本取り、K1の登りを見ていると、先行パーティがザイルを使って下降して来るのが見えた。K1直下は等高線が密で急斜面そうだ。雪山初心者にはアドバイスをしながらK1を登り始める。実際登ってみると、雪は緩んでいてステップが切りやすく危険は感じなかった。徳本峠を出発して4時間45分後にK1に着く。K1から六百山へ続く尾根には這い松が出ている。さらにそのバックに鎮座する前穂吊尾根から奥穂の展望が見事だ。霞沢岳頂上からの展望がこれ以上に楽しみだが (ここから霞沢岳を往復してから徳沢園まで行くと明るい内には着けないな)



K1にて

と思っていると、リーダーからK1から下山するとの指示があり退却する事になる。後ろ髪を引かれる思いで霞沢岳に別れを告げる。無事下山する安全登山に比べたら霞沢岳登頂断念は仕方ないと自分に言い聞かせる。いつも登頂断念する時の自分自身への言い訳だ。下山開始。K1からの急斜面で数mずり落ちるメンバーも居て、ひやっとする場面はあったが、登って来たルートを戻り徳本峠に帰る。結局K1往復に8時間20分かかった。やれやれの気分もつかの間、これからテント回収して徳沢園まで下るアルバイトが待っている。再度気合を入れ直す。徳本峠から皆口数少なく黙々と下る。白沢出合からの遊歩道は思い思いのペースで徳沢園を目指す。折から降り出した雨に明日の天気が気になった。

(記:藤田)

<第3日> 5/1(日) 曇りのち晴れ 行動時間=9H30M (休憩含む) [天野 記]

【行動記録】起床(3:30)ー徳沢テン場発(5:10)ー標高1865m付近1本(6:15-10)ー標高2140m付近1本(7:30-40)ー一本アイゼン装着(8:40-9:00)ー長堀山通過 標高2565m(9:20)ー妖精の池通過 標高2600m(9:53)ー蝶ヶ岳頂上 標高2677m(10:30-35)ー蝶ヶ岳ヒュッテ一本(10:45-11:00)ー横尾方面分岐 標高2625m(11:40)ー一本アイゼンを外す(12:15-30)ー横尾一本(13:20-30)ー徳沢(14:40)

前日の天気予報では「稜線で風が強いが回復傾向」との事だった。起床すると雨がぱらついていて、「回復傾向に期待し」徳沢を出発した。メンバーから「長堀尾根はひたすら長くうんざりしてしまう。特に1ピッチ目が急登」との情報をかみしめ、ゆっくり登り始めた。標高1800m付近から積雪が現れ少し登り辛くなる。このあたりから蝶ヶ岳からのたくさんの下山者とすれ違う様になった。下山者の情報では、「昨日はテントが壊れた方も含め、テント泊の人は皆さん蝶ヶ岳ヒュッテに避難した。超混雑のため膝を抱えて寝ている人もいた」との事だ。相当風が強いらしい。樹林帯のため風はまだ吹いていないが、やがて藪がぱらつき始め合羽を着こんだ。長堀山の直前でアイゼンを装着すると、滑らず安定して登れる様になった。長堀山・妖精の池を通過した後、稜線に出る前に目出帽など防寒準備を整えて出発した。情報通り風が強く吹いている。10m~15m/毎秒くらいの様だ。時々よろめきながら蝶ヶ岳に向かうが、稜線は雪が少なく歩きにくい。山頂で集合写真を撮り早々にヒュッテに避難した。風の抵抗が強いため、ザックカバーを外し、またスコップをザックの外につけている者はザックに収納した。山頂から40分程で横尾分岐に到着し左に折れると、樹林帯に入るとやっと風は治まった。ここからは順調に下りどんどん標高を下げていく。結構頑張り横尾山荘に到着し、ホットした。

<第4日> 5/2(月) 晴れ 行動時間=2H (休憩含む) [町田 記]

【行動記録】起床(4:00)ー徳沢テン場発(5:40)ー明神(6:20-30)ー上高地(7:40)着

涸沢へ向かう小田君を見送り、帰りの林道を歩きだす。本日は天気も良く、明神岳がくっきり見える。気になるのは早朝からのへりの音、荷揚げでもあるまいし、遭難者捜索・救助への危惧が高まる。明神で軽く休み、早々にこなし平に着く。閑散とした河童橋は人も少なくデンソー山岳部が独占する。梓川を隔てての焼ヶ岳、前穂高から吊り尾根と奥穂高・ジャンダルムから西穂高への尾根がまるで写真のように綺麗に見える。

上高地でタクシーをひろい、沢渡へ下る。9時前に温泉宿の湯につかり帰路に就く。

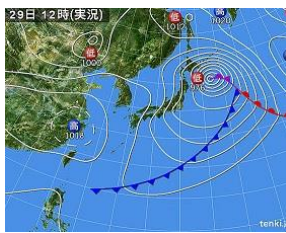
<装備所見> [吉田(明) 記]

参加者8名に対しV8とエスパースを持参したため、山行後の団欒も就寝も広々とした空間で快適に過ごすことが出来た。徳本峠も徳沢も雪が無く、竹ペグだけでなく鉄ペグを持参して正解だった。

<気象報告> [神戸 記]

今回は大矢さんから教わった気象情報ソースを1週間前、3日前、1日前と展開し、最後に大矢さんの天気予報サポートいただいた。また日本山岳会の無料天気予報メール配信に登録し(ヤマテン提供)予想情報を大いに活用させてもらった。29日に低気圧通過に伴い寒気が南下、天気は30日、5月1日は良さそうというところまでは、入山前に仕入れていたが、入山後の天気予報での30日午後の雨や1日の蝶ヶ岳の強風までは予想できなかった。携帯電波の入るところではこういったメールサービスや天気情報の収集は非常に有効であることを実感した。また春山の気象予測の難しさを感じた。以下概況。

第1日目(4/29 12:00)



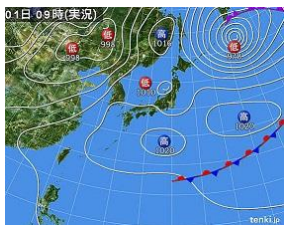
日本海から三陸沖に抜ける低気圧の影響で、冬型の気圧配置となり、北西風は吹くが穂高連峰の陰では弱く、日中はおおむね晴れる。徳本峠では新設の積雪は確認できなかった。

第2日目(4/30 12:00)



朝方は高気圧に覆われて広い範囲で晴れ、霞沢岳手前のK1ピーク(2590m)では穂高連峰は言うに及ばず、八ヶ岳、中央、南アルプス、御岳、乗鞍、白山が眺望できた。15時以降は小雨に降られ、テントを張ってからは本格的に降雨があった。1日目の気圧配置で低気圧が発生するとはなかなか予想できない。

第3日目(5/1 9:00)



日本海の低気圧の影響で、午前中は強風が吹く。行動時間中ほとんどがガスの中で時折日差しは射した。蝶ヶ岳稜線に張ったテントは3張り程つぶれていた。かなりの強風に見舞われたようだが、我々が10時以降に通った時は、風速10~15m/sにおさまっていて、何とか安全に歩行できた。

第4日目(5/2 6:00)



再び高気圧に覆われ、日中は晴れる。

<食料> [吉田(有) 記]

- 1日目夕食：シチュー、ピラフ(5合/8人)
- 2日目朝食：肉団子入りうどん
- 2日目夕食：白菜と豚肉鍋、ごはん(5.5合/8人)
- 3日目朝食：雑炊(4合/8人)、漬物
- 3日目夕食：カレー(5.5合/8人)、海藻サラダ、卵スープ
- 4日目朝食：ワンタン入りラーメン

今回はテントに荷物を置けるとあって、重さを気にせずに計画をたてられた。毎回難しいのがお米の量である。通常は1人0.7合程で計算するが、シチューや鍋のように、具沢山のものがある時は0.6合で丁度よいが、カレーの時は0.7合でも少し足りないくらいであった。作る料理やメンバーの年齢・食欲、さらにその日の行動時間なども考慮してお米の量を計算しなければならない。

人数が多い時の買い出しは、業務用スーパーを利用すると便利だ。無駄な包装がなく低価格で、良い物を手に入れることができた。

うどんは日清どん兵衛のリフィルタイプを使用。人数が多い場合取り分ける必要がなく便利である。

朝の麺類に肉団子やワンタンを入れることでボリュームがで、タンパク質もとれる。

<会計報告> [天野 記]

収入

項目	小計	備考
会費（7名）	85,400	12,200×7人
会費（1名）	8,220	小田君（引続き登山）
合計	93,620	

支出

項目		備考
高速代(行)	7,540	3770円×2台（祝日割引）
高速代(帰)	10,780	5390円×2台
ガソリン代	11,900	
車消耗費	5,400	5円×往復540km×2台
駐車場	4,800	600円×4日×2台
タクシー	16,800	4200円×2台×2回
テント場代	16,800	700円×8名×3日
食材費	19,100	
水	500	100円/1ℓ×5（徳本峠）
合計	93,620	

<リーダー所見> [小田 記]

今回の山行は北アルプスの中でも比較的入りやすい場所を選定し、雪山の初心者でも参加できることを心掛けた。しかしながら行動時間やルート、日程については当初の計画では初心者には少し難しかったであろうことが自身の反省点である。メンバーの改善提案に感謝である。徳本峠、徳沢にベースを張ったためテント場ではあまり風にも吹かれず、またアタック自体も空荷でできたため快適な山行であった。しかし空荷の状態でも斜面によっては苦戦しているメンバーがいたので各人の課題としてほしい。雪上歩行は経験が必要なため、雪山を目指す部のメンバーには積極的に合宿含め積雪期山行に参加してもらい、レベルアップを図ってほしい。

今回も楽しく充実した山行でした。同行メンバーに感謝。

<感想>

【神戸】

5年前の蝶ヶ岳、常念岳の春山山行が私の本格的雪山デビューであり、いきなり厳しい気象に遭ったという記憶に残る場所である。蝶ヶ岳で当時の強風が吹くか心配したが、今回は心配した程ではなかった。当時風よけの為V8テントを張った場所を再訪してやはり先輩たちが安全な場所を選んでくれたと再確認できた。厳しい条件を念頭に置いて準備、そして現地の状況に対応すれば、安全登山につながるものと思う。霞沢岳へのルートは人気も少なく、ちょっとした読図もできて個人的には楽しかった。雪山に限らず再訪したい。

【藤田】

「好きな山は？」と問われたら、「霞沢岳です」と言っていた時期があった。20代の春に八右衛門沢から登り、頂上でテントを張って穂高の展望を1人占めにした楽しい思い出をしたからだ。あれから40年経って霞沢岳には春夏に何回か登ったが、今回は残念ながら登頂出来なかった。しかし、安全登山を優先

してK1で引き返したリーダーの判断に感謝します。

【天野】

予定の奥穂高岳では技術的に難易度が高いと思い、参加を悩んでいた。霞沢岳・蝶ヶ岳へと変更になり、これなら行けると思い参加する事にした。しかし霞沢岳は奥穂以上に難易度が高く、急斜面の下りでは危ない場面が有り厳しかった。参加する場合は、下調べを行う事と確保技術を上げて参加する必要がある。蝶ヶ岳は風が強い事があると聞いていたが、稜線ではその通りの体験が出来た事が良かった。しかし何を置いても、疲れたあとのテントでのまったり感は最高でした。山仲間感謝します。ありがとうございました。

【吉田(明)】

GW中、年初予定の北穂・奥穂高では遭難者が続出したが、蝶ヶ岳・霞沢岳に行き先変更した我々は無事に合宿を終えることができた。今回は女性2人の参加があり、山行中もテント内での団欒も賑やかで、いつもと違う雰囲気合宿だったと感じた。春山は気温・気候も厳しくなく雪山を楽しめるので、雪山に興味ある方には来年是非参加してもらい、雪山の楽しさを知ってもらいたい。

【町田】

今年も愉快的なメンバー(良くしゃべる人、良く寝る人、良く食べる人・・・)と雪山をご一緒できて満足です。

特に食料担当、吉田有希さんの前準備と手際の良い食事は楽しく、美味しく、合宿を盛り上げてくれました。

霞沢岳は遠く、ピークに届きませんでした。

レベルアップした体力と技術でみなさんのリベンジを霞沢は待っていると思います。

【吉田(有)】

霞沢岳へは登頂できなかったものの、K1から奥穂高岳を間近に見ることができた。今回は空身のため11時間行動できたが、全装備で同じように歩行ができるかと考えた場合、少し不安が残る。この春山合宿に向けて20kg程の装備でトレーニングをしたが、連日歩くというのは筋肉痛や疲れがあるため、いかに疲れを次の日に残さないかが必要であると感じた。意識して行動後は甘いモノを摂り、たくさん食べ、良い睡眠がとれるよう心がけたが日に日に疲れが溜まるのは否めなかった。

【根芝】

夏山と違いルートが不明確になりがちな春山で、地形図とコンパスを使用しながら進む良い勉強となった。進行方向を変える時など、後ろを振り向いて帰り道の風景を覚えるよう言われたが、正直雪と木しかないのではなかなか難しかった。何か覚えるコツがあれば教えてください。

また、これまで強風の中歩く経験をしたことがなかったため、蝶ヶ岳の稜線で風速10-15m程の風を体験できたのがよかった。今回は使用するに至らなかったが、耐風姿勢のやり方等、いろいろ勉強になった。